

滋賀県下水道審議会

第11回滋賀県下水道審議会 議事録

1 日時：令和2年（2020年）5月26日（火） 14：00～16：00

2 場所：WEB会議

3 出席委員等：（五十音順、敬称略）

上村照代委員、木下康代委員、清水芳久委員（副会長）、杉澤喜久美委員、只友景士委員、西野麻知子委員、松井三郎委員（会長）、松村順子委員

【全10委員、出席8委員】

（事務局：技監（下水道担当）、下水道課長、下水道課関係職員）

4 開会あいさつ等

・開会のあいさつ

5 議事内容

（1）滋賀県下水道第2期中期ビジョンの策定について

事務局より資料1に基づき説明

・欠席の委員の意見紹介

→県民との共同を大切にして欲しい、下水道の大切さが分かるようまたコンセプトの「みんなでも」にもあるよう県民と一緒に巻き込んでやっていくことが大切である。

（2）意見交換・質疑応答について

・p20のYM菌とは？70～80℃ということだが、下水道に特化した菌か？<委員>

→佐賀市の事例で、下水道汚泥をコンポスト化するための菌<事務局>

→火山土壌性細菌であって、高温細菌の一種を含む菌群の総称である。下水道のみならず有機性物質を発酵させる菌群で、他都市では生ごみにも活用している。<会長>

・p21 共同研究をするときには、研究費の獲得も入れておいてはどうか？<委員>

・p22 未利用地の活用に、市民農園以外に、地震時等の避難所もあげた方が良いのではないかと？<委員>

・p29 は電気代が下がった割合に応じて業者へ金銭的にバックする仕組みは良い。金銭的なインセンティブを与えると明記してもよいのではないかと。<委員>

・アンケートやグループワークの実施により、分かり易い抽出テーマになっているように思う。

できたら概要版の中で方向性、目標を明確に記載してはどうか。〈委員〉

・若々しさを県の下水道の持続可能性につなげて行ってほしい。〈委員〉

・広域化・共同化が出てきていないのが、気になる。これは、別に表現されているのか、あるいは、効率化の表現にまとめて含まれているのかを知りたい。〈委員〉

・下水道の未利用地を有効活用（公園やグランドゴルフなど）することは、これからも続けていただきたい。建物の屋上など、もっと活用できるのではないか。〈委員〉

・全体の印象として内容が難しいと思ったが、滋賀県の進捗状況が全国の中でどの程度の位置になるのか、何が原因で進んでないのかというのがぱっと見てわかるようになっていけば、下水道のことを詳しくない県民でも見てわかるのかなと思った。〈委員〉

→普及率は全国7位、高度処理普及率は全国トップクラスです。滋賀県の下水道は、全国的にも進んでいると自信を持ちながら進めている。これら全国との関係は記載予定。〈事務局〉

→県民の方にも分かり易いように工夫すべき。〈会長〉

・「みんなで」のキーワードで、県民の意見を聴く機会はあるか？いきなり SNS での情報発信だけでなく見学会の開催も必要。小さい子供を対象に下水道に親しみをもってもらえるように取り組んでほしい。〈委員〉

→パブリックコメントで県民の意見を聴く予定。見学会だけに留まらず、サポーター制度などを立ち上げて意見交換の場を作ったり、市民科学など下水道に親しむ仕組みをやっていきたい。

〈事務局〉

・「ごみ」については、小学4年生で勉強する機会がある。下水道も勉強する機会が必要だと思う。

〈委員〉

→小学生はうんちが大好きで、うんちのドリルがある。水道・下水道は面白い科学なので、事務局の方も市民科学（日常生活を科学する）の題材に下水道を取り上げてプロジェクトをしていただけたらと思う。〈会長〉

・抽出した11のテーマの中に、下水道の啓発活動の推進を付け加えてほしい。市民科学、環境教育という言葉を使ってほしい。〈委員〉

・SNSのほか、YouTubeを使って、下水道教育の題材としてシリーズ化するのも一つの方法ではないか。〈委員〉

・県民との協働という観点から、いきなり行政と県民が同方向のベクトルをもつのは時間がかかる。次回の下水道ビジョンでベクトルを合わせることを目標にし、今回のビジョンはその準備段階という位置づけで良いと思う。〈委員〉

・良いことが多く書かれているが、行政からの一方通行になっていると思う。コンセプトである「みんなで」があまり伝わって来ない。考えた内容をみんなに伝えようとするスタンスでまとめてほしい。〈委員〉

・5つの大テーマのどこかに、みんなが食いついてくれるキャッチコピーを入れてはどうか。また、下水道の情報発信について語り部がいると興味を持って入ってくると思う。〈委員〉
→OBの職員が語り部になってもらうこともありではないか。〈会長〉

・概要版の「コンセプトの意図」の「みんなで」の説明に「コラボレーション」とあるが、他は「パートナーシップ」となっている。「パートナーシップ」に合わせるべきでは。また、テーマの1つである「県・市町間のパートナーシップ」に「他の主体」を付け加えてほしい。
〈委員〉

・P.41 前回の審議会でも話したが、雨水対策は浸水対策だけに限らない。貯水（緊急時に飲料だけでなく、トイレを流すなどにも必要。停電の時は給水もままならない。）の観点からも対策が必要であり、県民への啓発も含めて追記してほしい。ため池の水位管理や水路堰の周知など、雨水対策にもっと県・市下水道課が先駆的に取り組むべきであり、雨水整備計画についてもっと住民への説明が必要ではないかと思う。また、県内各市町は現状に合わせ雨水整備計画を見直すべき時ではないか考える。〈委員〉
→雨水を貯めるのは下水道ではなく、他部局になる場合がある。他部局との連携は必要と考えている。〈事務局〉

・マンホールトイレはどこにあるか広報が必要で、他部局との連携も大事だが、だれかが声を上げる必要がある。どこかに入れておく必要があると思う。〈委員〉

・以前から水に対する総合的な施策が必要だと考えている。下水道であっても、水に関する啓発や知識を伝え、その先に総合的な政策を県民と考えることが「伝える」になるのではないかと。
〈委員〉

・長くかかる道路工事は、市民にとって迷惑に感じることもある。下水道管の入れ替えでも今回はここからここまで、次回はここからと長い時間かかっているように感じる。全体の計画が分からないとただただ迷惑を感じる。市民に伝え、教育することが大切と感じる。〈委員〉
→老朽管対策は、優先順位を付けながら実施している。市民に迷惑をかけないように、道路を掘り返さない「管更生」などの新しい工法を採用している。ICTや新技術も取り入れて、住民に迷惑かけない手法も提案させていただく。〈事務局〉
→大阪市など、古くから下水道がある都市は、管更生の導入が進んでいるが、滋賀県についてもこれから必要性が出てくるので導入を期待している。〈会長〉

・経営については重要事項にないが、盛り込まれているのか。〈委員〉
→「組織体制など経営基盤の強化」に盛り込んでいる。〈事務局〉

→県外下水道組織間の話と、県内市町間の話とがある。宿題として残っていると理解している。
<会長>

6 閉会あいさつ